

# 令和3年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画

令和3年4月1日

## I 教育目標

「質の高い学力」と「信頼される人間力」を育み、社会に貢献できる人間を育成する。

## II 学校経営方針（中期経営目標）

「真の自己実現にTRY」をスローガンに、教育目標の具現化に向けたキャリア教育の推進を継続し、生徒の力が「伸びる学校」・生徒の力を「伸ばす学校」を目指す。本府「教育振興プラン」及び「学校教育の重点」を踏まえ、学習指導要領に即して創意・工夫した教育課程を編成し、日々の教育活動の充実に努め、希望進路の実現と心豊かにたくましく生きる人間の育成を図る。

- 1 地域・生徒・保護者に信頼され、地域と密着し地域を教育で支える学校として様々な教育活動を展開する。
- 2 キャリア教育の推進を図りながら、前向きな社会生活を営むための職業観を醸成するとともに、生きる力を育み、社会に貢献できる人間力を育成する。
- 3 一人ひとりを大切にしながら厳しくも愛情のある生徒指導を軸に基本的な生活習慣を確立し、「自学・自習」の習慣を定着させ、個に応じた希望進路の実現を図る。

## III 本年度学校経営の重点目標（短期経営目標）

### 1 希望進路の実現に向けた学力の充実

- (1) 授業を大切にする姿勢と授業規律の確保に努め、基礎学力の定着と学力の伸長をねらいとする各取組の実践を図る。
- (2) 個に応じたていねいな指導を行い、わかりやすい授業づくりや学習を支援するために、ICT機器や学習支援システムの積極的な活用を図る。
- (3) 多面的評価に資する観点別評価を引き続き実践し、新学習指導要領の実施を見据えた各科目の指導計画及び内容の研究を進める。

### 2 生活指導の充実

- (1) 挨拶や身だしなみ等の基本的な生活習慣の確立や、SNS、薬物乱用防止、交通安全等の規範意識の醸成に向けて、学校、家庭、地域が協働して指導を行う。
- (2) 各行事や生徒会、部、ボランティア等の活動をとおして、自己有用感の高揚を図り、主体的に行動できる態度を育てる。
- (3) 抱える課題の改善や克服、支援に向けて、多くの教員が関わりながらきめ細やかに指導し、必要に応じて外部機関と連携を図る。

### 3 人権教育の推進

あらゆる場面での一人一人を大切にする指導を通じて、自他の生命と人権を尊重する意識や態度の育成を図る。

### 4 キャリア教育の推進

本校のキャリア教育を牽引するキャリアコースの各クラスの特徴をより明確化し、クラス間や異学年の連携により職業観の醸成、希望進路の実現につなげる。また、キャリアコースの取組の他のコースへの積極的な展開や、「総合的な探究の時間」等を活用しながら、自らの適性の理解と将来を見据えたキャリア意識の高揚を図る。

### 5 その他

- (1) ホームページや学習支援システムなどを活用し、本校の特色や教育活動の様子、緊急時の対応等の情報を積極的に発信する。
- (2) 会議などの精選、ICT、グループウェアの積極的な活用により、教職員の働き方改革を進める。

## IV 前年度の成果と課題

- 1 臨時休業、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策等により年度当初の計画から多くの変更があった中、実施方法等を工夫しながら生徒の学習、活動機会を確保することができた。
- 2 学力の定着をねらいとする取組を学校再開後早期から行い、年間を通じて実施することができた。また、学力伸長の取組や個々の進路希望に応じた指導により、進路実現につなげることができた。今後は、家庭学習も含めた学習習慣の定着のための学習支援システムの活用が必要である。
- 3 キャリアコースにおいて工夫して外部組織と連携し、他のコースでもキャリア意識の醸成をねらいとした取組を実施することができた。引き続き「総合的な探究の時間」を活用しながら教科横断的、系統的に実施する。また、今後は学んだ内容を生徒自らが発信できる機会をさらに増やしていきたい。
- 4 基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成、自他の人権を尊重する意識や態度を身に付ける指導を継続する。
- 5 必要とされる教育的ニーズに対して支援を行うことができた。今年度もより細やかに情報を収集し、適切な支援につなげる必要がある。

令和3年度 京都府立東稜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
				最終	
組織運営	本校の特色ある教育活動を全教職員の共通認識に基づき、具体的な取組の中で実践する。	会議や資料提供によって情報の共有を図り、必要に応じて積極的な意見交流を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校改革や新制服の検討する会議をとおして教職員間で活発な意見交流を行うことができた。</li> <li>・管外視察を実施し、学校改革へつなげることができた。コロナ禍で実施できなかった視察を来年度は実施したい。</li> <li>・観点別評価については、本年度の成果をもとに、来年度の具体的な実施方法を決定した。</li> <li>・ハンセン病に関わる人権教育について校内で実施するとともに地域の小中学校とも連携し、啓発活動を推進していく検討を始めた。</li> </ul>
		研修会の開催や校外研修会への積極的な参加により、本校の教育活動を随時点検、確認する。	B		
	本校の今後の方向性や新学習指導要領を踏まえ、地域から信頼されるよりよい学校づくりに向けた検討を進める。	令和4年度入学生のコース編成や教育課程、観点別評価等の実施に向けて組織的な検討を行う。	A		
		各指定事業等を本校の教育活動に位置づけて、効果的な実施を図る。	B		
学習指導	ICT機器や学習支援システムの積極的な活用を図りながら基礎学力の定着を図る取組を主導する。	低学力、個別の学習支援が必要な生徒を早期に把握し、計画的・組織的な指導・支援体制により基礎学力の定着を図る。（東稜セーフティネット・プログラム、基礎補充等）	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップアップ等により数学・英語の基礎力定着を図り、基礎学力補充を定期考査前に実施することで、成績下位層への指導を継続的に行った。これらの取組みについては、「学習成果」と「自己肯定感の醸成」の両面から検証を要する。</li> <li>・ICT機器を用いた授業については実践が活発になりつつあるが、生徒に使用させる形での展開については、引き続き実践と研究が必要である。</li> </ul>
		教科主任会議等を有効に活用し、ICT機器や学習支援システムの活用法を共有し、実践の機会を確保する。	A		
	わかりやすい授業づくりのための工夫と各教科の多面的評価に資する観点別評価の研究を一層深め、学習評価方法の改善を進める。	1・2年生については統一の評価基準（東稜スタンダード）のもとで評価を行う。	A		
		生徒が主体的に取り組み、学習効果が上がる授業手法、及び観点別評価の研究を進める。	B		
キャリア教育	キャリアコースの取組を発展させ、すべての生徒のキャリア意識の高揚を図る取組を実践する。	上級生と下級生が協働して取り組む縦断型学習、キャリア3分野が連携した横断型授業の推進、充実を目指す。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止の観点から、横断型、縦断型学習は十分に取組みなかった。地域との連携としては、ライフマネジメントクラスと地域の小学校との遠隔授業をはじめ、新しい形での連携を行うことができた他、感染対策を取りながら特別授業を進めることができた。</li> <li>・次年度からコース編成も変わるため、広報活動を積極的に行い、校内、校外での認知度を高める必要がある。</li> <li>・ICT環境が整う中、共同学習などの取組を通して、一定の表現力を身につけることができた。ICTを活用した新しい授業の在り方は今後も研究が必要である。</li> </ul>
		本校の特色であるキャリアコースの魅力を地域に発信し、地域との連携を深める。また出前授業や学校説明会を通して、中学生にキャリアコースについて周知する。	B		
	「総合的な探究の時間」を教科横断的、系統的に実施し、協働学習、プレゼンテーション等をとおして主体性を培う。	教科の連携をはかった横断的な取組や各コースの専門性を活かした学年縦割りの取組、地域との連携をはかった体験的な学習等をとおして、主体的な学びに結びつける。	B		
		プレゼンテーション能力や文章表現能力を身につけることで、生徒自身のキャリア形成の一助とするとともに、自己有用感を身につける。	B		
人権教育	自他の生命と人権を尊重する意識や態度を身に付ける取組を実践しつつ、教育活動全体を通して人権感覚の涵養を図る。	ホームルーム活動や特別活動、部活動などを通じて、深い信頼関係に基づく人間関係の構築を促す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止の観点から多くの行事が中止となり、深い人間関係を形成する取り組みは不十分であった。人権講演や探究学習を通じて、自己の在り方を模索し人権感覚を養う事ができた。</li> </ul>
		人権学習や総合的な探究の時間などをきっかけに、自己の行動のふりかえりや他者との意見交流を図り、人権感覚を高める。	B		

生徒指導 特別活動	基本的な生活習慣の確立、規範意識の醸成を図り、主体的に行動できる態度を育成する。	携帯電話・身だしなみ・遅刻等、生活面での課題において、学年部と連携を図り、段階的に指導する。	A	A	頭髪については、カルテを用いて継続的に指導し、生徒も応じるようになってきている。携帯電話について生徒会を動かしながら次年度に向けたルールの変更を進めることができた。公共物への破損は減少したが、特定の個人やグループに限定される傾向が見られる。特別指導については意識的に個に応じた指導をした。感染状況により学校行事は中止・縮小となったが、生徒会・委員会は一定の活動ができた。部活動については活動制限により、前向きに取り組む意欲を伸ばしづらい状況である。学校生活に軸足を置き、目を向けさせることが課題である。生徒指導全般において生徒の主体性に訴えかける指導の工夫を進めていきたい。
		生徒個々の特性の理解に努め、教育支援の手法を用い、個に応じた指導をする	A		
	自己有用感の高揚を図る取組を進める。	部活動の活性化を図るため、部顧問会議・部代表者会議を定期的に開催する。	B		
		各種行事の取組を自主活動と捉え、生徒の自治能力を高め、リーダーを育成する観点で各種委員会を開催する。東稜祭検討会議を実施し、円滑に運営する。	B		
進路指導	キャリア意識を高めて、自らの将来を主体的に考えさせる取組を進める。	ポートフォリオを作成し、建設的に自身の進路について考えさせる。また自らの適性を理解しながら、職業についても考えさせる。	B	B	コロナ禍であっても、進路説明会や進学補習、就職講座等の各講座を実施する(学習合宿は中止)ことができた。生徒を継続的に学年、教科担当と情報共有することで学力伸長と希望進路の実現に向けての力添えができたように思われる。今後は、より一層、生徒だけでなく保護者にどのように変わりゆく進路について説明(浸透)していくことができるかが課題である。
		卒業後の将来を見据えて、ミスマッチのないよう情報共有し、多面的に指導にあたる。	B		
	希望進路の実現に向けて、学力伸長を図る取組と進路別取組を主導する。	東稜チャレンジ講座や学習合宿等を活用し、定期的に模擬試験を積極的に受けさせることで学力伸長を図る。	B		
		進学補習、突破講座、就職講座等、個々に応じたきめ細かいサポートをする。また、昨年度よりガイダンスを増やす。	A		
健康安全 特別支援	健康に関心を持ち、適切に行動できる知識と態度を身に付けさせる。	健康診断や「生活とからだのアンケート」の実施、感染症に関する情報提供等を通して、生徒一人ひとりが健康の大切さを再認識し、自らの健康を管理し改善しようとする態度を育てる。	A	A	新型コロナウイルス感染防止に留意しながら、昨年度の経験を活かし、実施形態を工夫しながら、健康診断や性教育講演会を計画通り行うことができた。「生活とからだのアンケート」についても早期に実施するなど見通しをもって、取り組むことができた。しかし、1月下旬にZOOMを用いて実施予定であった第1学年対象のAED講習会については、新型コロナウイルス感染拡大により来年度に延期せざるを得なかった。また、教育支援会議では、教育的ニーズを有する生徒、メンタル面で苦悩する生徒に加え、家庭生活に困難を抱えるヤングケアラーなど、新たな支援対象も加わり、学校内での支援で完結しないアウトリーチの視点、外部専門機関との連携など、新たな課題が浮き彫りとなった。
		救命救急講習会や性教育講演会を実施し、生命および、自己や他者を尊重する態度を育むとともに、生徒一人ひとりが健康で安全な生活を送り、責任ある行動がとれるようにする。	B		
	生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な支援を組織的に行う。	教育支援会議を定期的に開催し、多様な課題をもつ生徒の状況把握を行うとともに教職員の共通理解のもと適切な支援に努める。	B		
		教職員研修やスクールカウンセラーとのコンサルテーションなどを通して、特別支援教育についての教職員の理解を深め、生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた具体的な支援につなげる。	A		
学校 図書館	効果的な教育活動の実践に向けて、図書館の機能のICT化を進め、最大限に活用できる体制づくりを進める。	ICT化を進めるための、図書館での活用事例を集め、研究する。	C	B	ICT化を進めるための他校の実践事例を収集し検討した。また、図書館のイベントと委員会活動を関連付けて実施し図書館の利用者の増加を図った。
		生徒の読書活動の推進を図り、図書館の利用を促進する。	B		

施設設備 管理	安心・安全で教育効果向上に繋がる施設・設備環境の維持・管理に努める。	毎月施設・設備点検を実施し、施設等の破損・危険箇所の早期発見に努め、対応する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全点検を実施し不具合箇所について対応した。</li> <li>ICT教育に向けての整備については未整備な部分もあり、今後進めていきたい。</li> </ul>
		感染症対策及び本格的ICT教育の始動に向けて整備を進める。	B		
修(就)学 支援	修(就)学機会保障のための支援策を充実させ、保護者への情報提供を促進する。	修(就)学支援等の案内を紙文書だけでなく、Classiやホームページにも掲載し周知を徹底する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>Classiの積極的な活用を図りたい。</li> </ul>
		各種制度の申請状況や書類の進捗状況を学年会議等で報告し、学年と情報を共有する。	B		
学年	<p><b>【第1学年】</b> 高校生としての自覚と目標を持ち、落ち着いた学校生活を送らせる。 また、学年、学級指導を計画的に行い、自己と他者の関わりを大切に、互いに協力し合って高め合える学年づくりを目指す。</p>	基本的な生活習慣を確立させる。学習環境の整備、学習習慣の確立を図り、基礎学力の向上につなげる。	B	B	<p>学習環境の整備に関しては、掃除や日直のシステムが各クラス機能し、おおむね達成できた。学習習慣の確立を図り、基礎学力の向上につなげる。という点は課題であった。基礎学力の向上のためにも、基本的な生活習慣に関しての手立てを考え、実践したい。また自己有用感の向上に関しても、具体的な実践で効果あるものを計画・実践していきたい。</p>
		東稜祭などの取組を通して、互いの個性を尊重して協力し、自己有用感の向上を図る。	B		
		各種委員会活動などを積極的に活用し、自主性や責任感を培う。 授業規律を大切に、課題提出を徹底する。学校活動全体をとらえて人権意識の啓発を目指す。	B C		
国語	生徒の意欲と努力を喚起し、評価する。	生徒の意欲を引き出す導入を行い、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各単元で導入を工夫することができたが、一人で主体的に取り組む活動まで導くことが難しかった。</li> <li>漢字テストや古語テストなど、計画的に実施することができた。小テストに向けての課題も設定し、家庭学習の契機となったと考える。</li> <li>担任と教科担当で情報を共有できた。</li> <li>観点別の評価を意識した考查を実施できた。設問を厳密に観点別に分けることは難しいので、適切であったかは検討が必要である。</li> </ul>
		小テストを定期的組織的に実施し、家庭学習の契機とし、漢字力や語彙力、古典単語力の定着を図る。	B		
地歴 公民	<p>新学習指導要領を見据えた観点別評価の手法を検討し構築する。</p> <p>協働学習やICT活用などさらに検討し、主体的な学習者の育成を図る。</p>	生徒の情報共有化し、指導に役立てる。	B	B	<p>コロナ禍ということもあり、協働学習については一定の制限がある状況であったが、ワークシートに自分の意見を記入するスペースを設けるなどして工夫を図った科目もあった。ICTについては、教員が活用する段階から生徒が活用する段階へのステップはまだ十分に踏めていないと感じる。 教科会議も議論の場として活用しながら、評価の在り方や授業改善の方策を探っていきたい。</p>
		教材や進度の打合せを綿密にし、考查の共通化を試み、観点別の適切な評価につなげる。	B		
		授業・定期考査の見直しや科目間連携をこれまで以上に密にし、多面的評価につなげる。 教科会議を活用し、交流する。	B C		
地歴 公民	協働学習やICT活用などさらに検討し、主体的な学習者の育成を図る。	協働学習について、自己・他己評価により自己肯定感を高める工夫をする。	B	B	<p>協働学習について、自己・他己評価により自己肯定感を高める工夫をする。</p>
		メディアリテラシーも含めたICT活用力を身に付けさせられるよう、ICT機器を積極的に活用する。	C		

数学	「わかりやすい」「理解できる」授業を実践し、生徒が「やり切る」姿を見届ける。	平常テスト等をこまめにおこない、基礎学力を定着させる。	B	短い間隔でテストや課題の提出を課すことで、細かく生徒の基礎学力が身についているかを確認しながら指導を進めることができた。進路に関わる教科指導の取り組みは機能していない事も多く、大きく再考の余地ありと言わざるを得ない
		到達目標に達していない生徒には、適宜、補充を実施する。	B	
	進路実現に向けた取組を計画的に進める。	模擬試験などの事前指導、事後指導を充実させる。	C	
		進路希望に沿った長期休業中補習・平常補習を充実させる。	C	
理科	日々の授業の学習規律の向上に努め、視聴覚教材の利用、実験の導入など、興味付けを行いながら基礎学力の定着を図る。	授業における指導状況の情報交換に努め、課題の共通理解を図ることで指導に役立てる。ICT機器の積極的な活用（特に実験時）を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導状況や生徒の情報交換を積極的に行うことを心がけ、教科内で一定の情報共有ができた。ICT環境が整いつつあるため、より積極的にICT活用に取り組んでいきたい。</li> <li>・授業中での課題、小テストを実施し、やりきらせる指導を行った。家庭学習の習慣付けに関しては、近年の生徒状況を鑑みて授業の中で完結するよう方針を変更した。</li> <li>・大学との連携は、昨年度と同様の内容を実施した。生徒からも好評であった。</li> <li>・進学補習は、授業やカリキュラムと関連付けた展開が課題である。生徒の多様な実態にうまく対応していきたい。</li> </ul>
		学習課題、小テスト等を実施し、学習内容の定着及び家庭学習の習慣付けに努める。	B	
	理系の進路指導の助力となるよう、教科の発展的指導に努め、個々の希望に応じた適切な進路学習指導を実施する。	大学との連携事業を計画的に実施し、教科指導、進路指導に役立てる。	B	
		進路補習において、個々の希望に応じ、充実した補習になるように努める。	B	
保健 体育	生涯にわたって健やかな身体を養うための実践力や知識を身につけるとともに、自らの健康を管理し、改善できる資質能力、態度の向上を図る。	健康づくりのための運動の大切さを理解させるとともに体力づくりを実践する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間のトレーニングや持久走を通して、体力の向上を図り、生涯を通じた健康づくりの意識を向上させることができた。</li> <li>・コロナ禍での授業展開において、年度当初の計画から変更せざるをえない状況もあったが、昨年度同様感染予防に努めつつ、個々に応じた運動量の確保に努めることができた。</li> <li>・コロナの感染状況により、キャリア実習がほぼ実施できなかった。</li> </ul>
		ルールやマナーを守り安全に配慮すること等により、体育の授業をより円滑にそして安全に参加し活動させるための心構えを身につけさせる。	B	
	キャリアコースライフスポーツの講演（講義）や実習の内容をより一層充実させる。	生涯スポーツ、体育特講の各授業内容を工夫し、学年を超えた縦の繋がりの強化を図る。	B	
		外部講師の活用を充実させ、内容の整理を図りながら、より質の高い取組を実施し、専門種目の技術の向上に繋げる。	C	
芸術	基本的な授業態度を定着させる。作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	授業を大切にさせ、授業規律を守らせることで、生徒が安心して受けられる授業を展開する。	B	授業規律が守られていることで、生徒が安心して授業を受けることができるので、次年度にはタブレットを使うこともあり、授業規律は徹底していきたい。作品やこれまでの課題の発表の場をコロナ禍もあり、十分できなかったが、廊下に掲示することや、教育美術展に出品するなどの活動で置き換えることができた。
		単元毎に、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する。また、その評価の積み重ねることで、生徒の情操感や達成感を育む。	B	
	作品を完成・発表させるまでの過程・工程の自主的思考力・判断力を建設的に身に付けさせ、自己有用感をもたせる。	時間をかけて取り組む過程を大切にし、作品を愛する心や情操感を養う。	B	
		作品の完成や発表だけでなく、取り組む過程・工程等、生徒が自主的に考え、行動できていることを評価する。	B	

英語	英語の基礎的な知識の定着を図る。	セーフティネットを活用し早期に生徒の躓きを把握する。	<b>B</b>	提出物や小テストは各講座・クラスで実施した。家庭学習習慣につなげるためにはより一層の工夫が必要だと思われるが、授業での学習内容を定着させるためにも継続したい。 ICT 機器は、教材提示のほか演習やパフォーマンステストにも活用されている。	
		提出物や小テストを利用し家庭学習習慣を確立させるとともに ICT 機器を活用し、わかりやすい授業や学習支援を行う。	<b>B</b>		
	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。	パフォーマンステストや TT を活用し、4 技能の統合を目指す取り組みを定期的・継続的に行う。	<b>B</b>		<b>B</b>
		GTEC を活用し、生徒の学習意欲や学力の向上を図る。	<b>B</b>		
家庭	社会と家庭生活に目を向け、自分自身の問題として、主体的に生活の充実と向上を図る。	主体的に生きる生活者として、必要な知識と能力を身につけることを目標に、実験・実習を取り入れる。	<b>C</b>	新型コロナウイルス感染防止のため、調理実習や校外へ出かける実習を行うことができなかった。結果的には令和2年度以上にできることが制限された。 1年生の家庭基礎では、学習の仕方を指導し、配布資料を工夫した結果、授業を聞く姿勢が身につき、学習意欲も高まった。ipad の使用や教室でのビデオ視聴を多くするよう意識して授業計画を立てた。	
		自分らしい生き方について考え、生徒自身が主体的に考える力を育てる教材を工夫する。	<b>B</b>		
	学習規律の向上に努め、授業への集中力を高め、学習内容の定着を目指す。	授業を大切にする学習姿勢について指導し、また、学習効果を高めるノートづくりに取り組ませる。	<b>B</b>		
		ICT 機器の活用や視聴覚教材を工夫し、授業への集中度を高めさせる。	<b>A</b>		
情報	情報を適切に扱い、自ら情報活用能力を評価・改善するための基礎的な知識や考え方を学習させる。	オフィスソフトやプログラミングソフトなどを取り扱いながら情報活用能力を高める。	<b>B</b>	<b>B</b>	
		相互評価も含めて主体的・対話的な活動を取り入れる。	<b>B</b>		
	情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任を考える態度を養う。	情報モラルやセキュリティについての考査を実施することで知識を増やす。	<b>B</b>		
		実践的な学びになるように指導内容を工夫する。	<b>C</b>		

学校運営協議会による評価	ICT を活用した学習保障に一層の進展が見られた。感染対策を徹底し、可能な限り学校行事等学校の教育活動を止めない工夫が随所に見られた。基礎学力が不足した生徒への学習指導、進路保障のための取組等によって一定の成果が得られた。ここ数年定員割れが続いていることに問題意識を持ち、積極的に学校改革を進めている姿勢は高く評価できる。改革にはリスクはつきものだが、失敗を恐れず挑戦して欲しい。
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	再定義したスクールミッション・スクールポリシーのもと、観点別評価導入に伴う指導と評価の一体改革や本校の魅力向上のための様々な取組等の学校改革を通して令和の時代にあった本校の特色ある「学び」を確立し、それを広く社会に向けて発信していく。
---------------	---